

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えになりましたことと存じます。先ずもって心からお慶びを申し上げます。

さて、昨年は奥出雲町が誕生して10周年の年となりました。5月には合併記念式典を開催し、多くの皆様をお迎えして、盛大に行ったところです。また、4月に開催された奥出雲ウルトラおろち100⁺遠足（とおあし）では、37都道府県から多くの選手に参加いただきました。また、6月にはNHKラジオ公開録音「ふるさと自慢うた自慢」、8月には「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を開催し、町民の皆様の元気な声を全国の方々に届けたところです。その他、合併10周年の冠をつけた様々な事業で記念の年を祝うことができました。

また、島根県を舞台にした映画作品で知られる錦織良成監督による「たたら」を題材にした映画「たたら侍」の撮影が、県内を中心に行われ、町内でも1月と10月に行われました。現在、世界で唯一「たたら操業」が行われている奥出雲町では、この映画を機に「たたら」と「奥出雲町」が全国に広く知れ渡って行く

事を期待しております。今後は、この世界に誇るべき「たたら」を、日本遺産登録、世界遺産登録に向け、近隣の安来市、雲南市と連携しながら、取り組んで行きたいと考えております。

スポーツにおいても、横田高校男子ホッケー部は、3月の全国高校選抜ホッケー大会で見事優勝を果たし、さらに8月の全国高等学校総合体育大会ホッケー競技では準優勝に輝きました。また、全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権で、横田中と仁多中の男子選抜チームが10年ぶりとなる優勝を手にし、奥出雲町の名を全国に轟かせ、町民を勇気付けてくれました。2020年に開催される東京オリンピックでは、「ホッケーの町」として、ホッケーチームの事前合宿を誘致するため、7月に招致委員会を設置したところです。将来のオリンピック選手になる可能性のある奥出雲町の子ども達に、世界の技に触れてもらう機会をつくるため、ぜひとも実現させたく考えております。

8月には、益田市で開催された第59回島根県消防操法大会において、奥出雲町消防団は小型ポンプの部に出場した亀高分団が見事優勝、またポンプ車の部に出場した横田分団も

準優勝という輝かしい成績でした。

農業においては、11月に開催された第17回米・食味分析鑑定コンクール国際大会において、奥出雲仁多米（株）が特別優秀賞を受賞いたしました。惜しくも6年連続の金賞とはならなかったものの、TPPの影響等が懸念される中であって、ブランド価値の高い良質米であることを、国内外に発信できたものと考えております。

なお、10月には「奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。今後の人口ビジョンは町にとって大変厳しいものとなっておりますが、昨年4月から地域おこし協力隊として県内外から奥出雲の地に魅せられた7名の隊員が町内で活動しております。今後もふるさと奥出雲を守り、さらに発展させていくため、総合戦略で計画した内容を着実に実行していきたいと思っております。

さて、本町の平成27年度の一般会計予算は、12月補正予算後で172億2700万円を計上することになりました。

生活基盤整備、雇用対策、定住対策、子育て支援など、当面する諸課題に対応するとともに、現在の経済情勢に鑑み、切れ目ない景気対策を行い、町の振興と発展、町民生活向上に努めているところです。

特に、今年是新仁多庁舎の完成を予定しております。公共施設の耐震化・防災拠点の整備を図り、また、新庁舎が町民の皆さまの新たなコミュニティの拠点となることを期待しています。

平成26年度決算に基づく町財政の健全化判断比率については、普通会計ベースで、実質公債費比率は15.7%と対前年度比1.6ポイントの減となり、また将来負担比率も173.4%と、対前年度比4.6ポイント減と改善しました。財政の健全度をみる指標である経常収支比率は、86.2%と対前年度比で3.2ポイント上昇しましたが、今後もよりいっそう健全で持続可能な財政運営に努めてまいります。

本年も引き続き、町民の皆様から要望の多い生活基盤の整備や農業の振興、観光振興や定住対策に努めながら、財政運営には細心の注意を払ってまいります。

結びになりますが、本年が皆様にとりまして、明るく希望に満ちた幸せな年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

平成28年 元旦

奥出雲町長 勝田 康則